

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800034
法人名	医療法人 三徳会
事業所名	グループホーム 希望の家
所在地	鹿児島県出水市六月田町360番地 (電話) 0996-64-8802
自己評価作成日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

希望の家では、季節の行事やお買い物など積極的に外出しています。隣接する医院を母体とし、朝夕の申し送り参加や委員会を通じて多職種との連携を密に行っており、利用者様やご家族様が安心してご利用できるよう努めています。個別機能訓練計画書を基に機能訓練を行い筋力の維持、転倒防止、誤嚥予防、認知機能の維持に努めるよう取り組んでいます。また、デイサービスも併設されており、一緒に花植えや野菜作りなどの活動をしたり慰問を楽しまれることで人との交流や地域との関りを持つ機会を作っています。

事業所の理念である「触れ合い・技術・共有」を意識しケアに取り組む事で利用者様の表情や仕草、発する言葉を大切に思い記録に残し、申し送りで利用者様の状態を共有できるよう努めています。利用者様の楽しみの一つである食事に関しては、管理栄養士が立てたメニューを提供しバランスの取れた食事内容となっております。また利用者様から協力をもらいホットプレートや鍋などを使用したリクエストメニューを一緒に作っています。誕生日には個別で外食を実施し喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「触れ合い 技術 共有」を理念に掲げ、利用者に寄り添う介護、利用者の持てる力を引き出し自立を支える介護、そして利用者の思いの共有と家族との協力関係が築けることを、常に考慮しながら日々の支援につなげる努力を行っている。理念を常に意識できるよう目に付く場所に掲示すると共に、いつでも確認できるようネームプレート裏に入れている。利用者のケアについて考える際は、理念を振り返るようにしており、概ね理念に即したケアができていると管理者は考えている。

非常災害時の対応や感染症、倫理やプライバシー保護について、虐待防止や身体拘束排除について等の内部研修を毎月計画し実施している。身体拘束の廃止については、身体拘束適正化委員会を設置し、2ヵ月毎に話し合いを行い、職員会議で報告している。言葉による拘束については、繰り返し話し合う機会を設けることで意識付けを図り、職員による不適切な言動が見受けられた際には、職員間で声を掛けたり、注意し合うよう努めている。

平日の昼食と夕食は母体医療機関の厨房から提供を受けているが、日曜日は利用者の食べたい物を、買い物から調理、配膳下膳までを利用者と職員が一緒に行っている。職員は利用者の気持ちに寄り添えるよう、食べたい物やしたいことが即実現できるよう臨機応変に対応したいと考え、日々の支援に反映させている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎週の朝礼時に理念を読み上げ、それに基づいたケアが出来るように意識付けを行っています。	利用者のケアについて考える際は、理念を振り返るようにしており、いつでも確認できるようネームプレート裏に入れている。できることに取り組める環境や家族との関係を大切に、日々の支援に反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や集会に参加している。また、近くの保育園やボランティアの方々の慰問を受け入れ地域住民とのつながりを大切にしています。	クリスマス会に保育園児を招待したり、歌や踊りのボランティアを随時受け入れ交流している。また、地域包括支援センター主催の認知症に関する集いに参加して他の事業所と交流することで地域の実情や現状の理解を深めることにつなげている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学に来られた方や電話での相談を受けたり、介護に不安のある方の相談窓口になっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催し、自治会長やご家族様に現状報告し、意見交換の場となっている。	会議には家族や自治会長、行政職員に加え、福祉用具事業所の職員も参加して事業所の活動内容やヒヤリハット、内部研修の報告を行っている。行政職員より、職員のメンタルに気を配り、より良い職場環境を作ってほしい等の助言をもらいサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して報告したり行政主催の行事や研修会などに参加し日頃から協力関係を築いている。	運営推進会議や集団指導、実地指導で意見を求めるほか、介護保険関係の書類提出時や相談事がある時等に出向き助言を受けている。また、隣接する母体医療機関の患者からの相談を行政に仲介することもあり、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となって定期的に居室環境のチェックや職員同士で言葉使いが不適切ではないか確認し合い、身体はもとより言葉による拘束もしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、2ヵ月毎に話し合いを行い、毎週実施している職員会議で報告している。言葉による拘束については、繰り返し話し合う機会を設け、意識付けを図ると共に、日々の支援で不適切な言動が見受けられた場合は、お互いが声をかけ合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の勉強会への参加や施設内研修を行うことですべての職員が意識し行動できるよう気を付け虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての施設内研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定があった際には直接説明し疑問点などその場で理解していただけるよう家族会を通して説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議でご家族様とコミュニケーションを図り聞き取り、運営に反映させている。	家族の面会時は主に担当職員が日々の様子等近況を報告しており、年1回実施している家族会でも意見を聞いている。また、家族には毎月「希望の家便り」と写真を送付することで意見や感想をもらう機会につなげているほか、面会時に記入する面会用紙に感想や意見記入欄を設けるなど、随所に意見を表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行っているホーム会議や部署ミーティング、年に二回の面談を通して意見や提案を聞き、日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	日常業務中での会話や申し送り時、職員会議等で意見を聞くほか、年2回、個別目標達成状況確認を兼ねた個別面談を実施し意見を求めている。勤務表作成時には希望休を尋ね、可能な限り取得できるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務状況やスキルを確認し個人面談等の機会を設けて相談に応じている。勤務手当の見直しなど賃金改善も随時行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行っている施設内研修をはじめ医院の勉強会や参加を通じて介護と医療の知識を身につける機会を設けている。また、施設外研修への参加も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域の行事など社会参加を通じ、他事業所との関りを持ちサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、利用者様との会話で出てきた言葉を記録に書き止め、その方がその方らしく安心して生活が出来るようスタッフ間で情報を共有し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族との会話で要望を聞き思いを受け止めるように努めています。また、リスク管理についてもご家族が理解されるよう工夫し説明している。話に出てきた内容は全スタッフで周知するようノートを活用し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族より心身の状態把握が出来るよう聞き取りを行い、又ケアマネからの情報も参考にし、アセスメントを実施しています。その内容から支援を検討しより良いサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の担当を決め安心して話が出来るよう関係性を作ることで信頼関係の構築を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、又は必要に応じご家族へ相談し、本人が本人らしく生活が出来るようにスタッフやご家族と協力しながら利用者様を支えていけるような関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別でお墓参りや買い物、馴染みのある美容室へ出かけたり知人の方が面会に来られたり関係が途切れないよう支援しています。	入居時に本人や家族、関係者から、これまでの馴染みの関係を聞き取り、入居後も日常会話から把握した情報を申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。馴染みの関係が途切れないよう、家族と職員が協力して同行し訪問するなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を決める際は気が合う方や利用者様の性格を考え誰もが独立しないよう必要に応じスタッフが介入し、話題を提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり他の施設へ入所されても必要に応じて相談や援助を行っています。スタッフも退所された方へ面会を継続しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や会話を通じ、思いや意向の把握に努めている。また、行動や表情からも思いを汲み取れるよう記録に残しスタッフで共有することで利用者本位の支援方法を検討している。	利用者や家族の思いや暮らし方を日常会話や表情から汲み取るほか、入居前のケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーからも情報を収集している。把握した内容は申し送りノートに記入し職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご自宅に訪問し、ご家族や利用者様から話を聞き、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。又、入所後も会話の中で昔の話が出た際は記録に残しスタッフ間での共有を図っています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や生活日誌を残すことで現状把握に努めています。変化があるときは申し送りにて情報を共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様からの聞き取りやご家族の面会時、電話連絡で意見をうかがい介護計画を作成している。毎月のモニタリングを行い3か月に評価している。	ケアプランには利用者や家族の意向や思いを具体的に記載すると共に、実施状況を毎日「ケアチェック表」に記録することで確認している。また、身体状況に変化が見られた時や利用者や家族の思いに変化が見られた場合には、その都度プランを見直し、必要に応じて作り替えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者の申し送りにて利用者様の様子を共有できるようにしています。また利用者様が発する言葉や普段の様子に変化があった際は介護記録に残し介護計画の見直しの材料にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況や要望に応じたサービスの提供を行っています。特に個別レクリエーションや集団レクリエーション、園外活動出来るようにしています。医院のセラピストにも身体機能を見えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフ間ミーティングにて一人一人が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族の希望に添った医療が受けられるよう入所前からのかかりつけ医の受診を継続しています。	入居前の受診の経過を把握し、これまでのかかりつけ医を受診できるよう家族と職員が協力して支援している。母体医療機関の医師による訪問診療が受けられるため、本人や家族、職員の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院と朝夕の申し送りにて情報の共有に努めています。また、体調の変化があった際はその都度相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは心身状況や日常生活等のサマリーを作成し情報を共有しています。また、入院中はスタッフが面会に行き病状の確認は看護師で対応していただき状態の把握に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様やご家族様の意向を聞き施設で出来ることの説明を行って同意していただいている。医療機関との連絡も日頃から確認しています。	「重度化した場合の対応に関わる指針について」「終末期の対応に関わる指針について」を契約時に説明し同意を得ると共に、入居後も状況に応じて繰り返し説明している。常時、看護師を配置していないため看取りには対応していないが、母体医療機関とは密に連携を図り、関係者間で話し合いを重ねながら本人、家族の思いを汲み取り支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時の対応や事故発生時の対応を施設内研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認を行いながら日中、夜間問わず安全に避難できるよう定期的な避難訓練を実施しています。地域の方々にも協力していただけるよう自治会の集会で声掛けを行っている。	年2回、消防署立ち会いの火災訓練を病院とデイサービスと合同で実施したほか、自主的に水害訓練も行い、避難経路や通報手順を確認している。備蓄に関しては、「災害用備蓄品管理表」により、数日分の飲料水や食料を台所に保存し、自家発電も備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正委員会を中心に個々の人格を尊重し言葉遣いに気を付けるようスタッフ間で対応を見直す機会を設けています。	プライバシーや倫理、接遇に関する研修会を実施し、羞恥心に配慮した声かけや来訪者への守秘義務の説明等を行っている。また、ポータブルトイレを使わない時は、カバーを掛けておくなど、外部の目に触れないよう日常的に気を配り支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者様の思いや希望に添ったケアを行うことで自己決定が出来るよう声掛けに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのペースに合わせ、日々の会話で情報収集し希望に添った支援を行います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様が着られる服を一緒に見て選んでいただいている。月一回の移動美容室を利用されたり行きつけの美容室に行かれ身だしなみが継続できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の昼食は利用者様の好まれる献立と一緒に考え一緒に料理をしています。また一人一人の出来ることを活かし野菜を切ったりお盆拭きをしています。	平日の昼夕食は病院の厨房から提供されているが、日曜日は利用者の食べたい物を買って調理、配膳下膳までを利用者と職員が一緒に行っている。また、おやつ作りやその日の気分で外食に出かけるなど、その時の気持ちを大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に二回栄養指導指導を受け主食の量や食事形態など一人一人に合った食事を提供しています。また、食べたいものや好きなものを聞き日曜のお楽しみメニューに取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っています。自力で出来ない方は介助を行い、夕食後は義歯洗浄剤を使い清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやリハビリパンツを使用されている方も排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ案内、介助を行っています。	「生活日誌」に排泄の項目があり、体調の管理と共に排泄状況を記録している。補助具に頼らずに気持ちよく排泄できるよう日中はなるべくトイレでの排泄を支援している。また、夜間の排泄が睡眠の妨げにならないよう、パット交換等、状況に応じた対応としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活日誌を活用し排便の状況を把握し、定期的な下剤の服用や汁物にオリーブオイルを使用している方もおられます。また、排泄時に腹部マッサージを行うなど個々に応じた便秘予防に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に2～3回以上入浴していただけるような声掛けを行っている。無理強いはせず一人一人に合った声掛けをし、入浴の時間を楽しんでもらえるよう努めています。	入浴が楽しみとなるよう入浴剤を使用したり、ゆず湯を提供するほか、気の合う利用者同士で入浴するなど、希望に合わせて支援している。また、保湿剤を用いた入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時、就寝時と声掛け介助を行い一人一人に合わせた支援を心掛けています。また午睡時間も一人一人声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり使用している薬の効能、副作用を理解し食前薬、後薬と二重チェックを行いながら服薬していただいている。月に二回の訪問診療にて常に連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を生かし役割を持って手伝っていただいています。ドライブや買い物も定期的に行い外出援助し楽しむ時間を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出や行事も計画し利用者様の希望に添って外出援助を行っています。本人様やご家族の希望で外出されています。	室内ばかりではストレスにつながるため、初詣や季節の花見、ソーメン流し、ぶどう狩り等を年間行事として企画し出かけている。また、天候や体調、気分に応じて出かけたり、個別に希望する外出先にも臨機応変に出かけるなど、利用者のその時の思いを大切にしたい支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は財布を所持されている。管理が難しい方は事務所で預かり管理し必要に応じて手渡したり一緒に買い物に行き好きなものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を使いたいとの声が聞かれた際にはいつでも使えるよう声掛けを行っている。また暑中見舞いや年賀状など利用者様の手作りのものをご家族や知人へ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては毎日清掃を行い利用者様の不快の無いような空間を維持している。季節によって掲示物を一緒に作成している。また利用者様の居室においては一緒に作成したり写真を掲示し心地よい空間作りに努めている。	リビングの採光は十分にあり、廊下に季節行事の写真を掲示している。浴室にはリフトを備え、昨年は浴室に暖房を取りつけるなど、温度差にも配慮している。電気をつけずにトイレに入ることがあり危険なため、自動照明に交換している。廊下に芸能人の写真を貼ることで歩行練習時の意欲を高める工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては利用者様同士の関係性や歩行状況、車椅子歩行器などの使用状況に応じて動線の妨げにならない事にも配慮しながら安心して生活できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、入所後に説明し、安心して生活が出来るよう使い慣れたものを継続して使用していただいている。	エアコンと電動ベッド、タンス、洗面台、クローゼット等を備え、たんぽぽ棟には居室にトイレも備えている。自宅から持ち込まれた馴染みの品と共に居心地よく過ごせる環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせてベッドの位置や家具などの配置を検討している。居室やトイレの場所が分からない方には目で見ても不安なく行けるよう張り紙をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない